

研究論集

第2集



アジアの歴史と近代(3)

河合文化教育研究所・北京大学歴史学系
第3回共同学術討論会(2004年8月)



アジアの歴史と近代(4)

河合文化教育研究所・北京大学歴史学系
第4回共同学術討論会(2005年8月)

2006年6月

河合文化教育研究所

研究論集

第2集

アジアの歴史と近代(3) 3

アジアの歴史と近代(4) 129

I アジアの歴史と近代 (3)

河合文化教育研究所・北京大学歴史学系
第3回共同学術討論会(2004年8月)



はじめに	5
郷里・官場・士林 漢晋士族の発展についての若干の断想	閻 歩 克 9 (谷川道雄 訳)
六朝貴族における人格と身体	谷 川 道 雄 25
愛のための戦い 漢と匈奴との戦争と良賤身分制	蔣 非 非 31 (山田伸吾 訳)
東北アジア諸民族の民族的系譜について 肅慎から渤海へ	河 上 洋 49
『遼史』国語解から『欽定遼史語解』まで 契丹言語資料の源流	劉 浦 江 57 (井上徳子 訳)
江戸時代の通俗道徳をとらえ直す 石門心学を通して	八 箇 亮 仁 81
第一次世界大戦の 世界性 の問題について	高 岱 91 (大谷敏夫 訳)
近代日中学術思想を比較して 經世学と法学・政治・経済学	大 谷 敏 夫 97
1989-1992年ブッシュ(シニア)大統領任期中の中米関係に対する中国知識人の反応 中華アメリカ学会を中心視点として	牛 大 勇 111 (劉 勇 訳)

北京大学歴史学系との共同学術討論会も 回目を迎えることとなり、会場を北京大学から日本の京都に移すことになった。日本での最初の開催となった今回の討論会は、最初から予期せぬトラブルに見舞われ、当初計画された予定を大幅に変えなければならなかった。当初の予定では、2004年 月27日の夕方、北京大学の一行が関西空港に到着することになっており、翌28日には京大会館にて討論会を開催することとなっていたのだが、飛行機の故障によって到着が24時間遅れることになってしまったのである。

28日の会場をキャンセルした上で、急遽河合塾京都校に会場を移して29日に開催することにしたのだが、この突然の変更を討論会参加者全員には連絡することができないため、28日には、京大会館にて来場された方々にお詫びと日程変更のお知らせを配布しなければならなかった。

討論会自体は一日遅れただけではなく、ほぼ半日に短縮されたため、かなりの強行日程となり、 月29日の13時から18時30分にいたる 時間半にわたる長時間を駆け足で進むということになったのだが、北京大学の先生方の協力によって、何とか無事に日程をこなすことができた。参加者全員に心から「お疲れさんでした」と言わなければならない。

この2004年 月末という時期は、実のところ日中関係にとっては微妙な時であった。前年の2003年10月29日、中国の西安市の西北大学で開催された演芸会での日本人留学生のパフォーマンスが「中国人を馬鹿にしている」という反発を招き、反日暴動とデモ騒ぎが起きていた。所謂「西安寸劇事件」と呼ばれるものだが、民衆レベルでの反日感情が露出しつつある時期であった。さらに2004年 月にはサッカー・アジア杯の決勝戦、日本×中国戦が北京で行われたのだが、ここでも暴動に近い反日行動が自然発生的に起こっていた。また、日中の政府間においても小泉首相の靖国神社公式参拝をめぐって「歴史認識」の問題が浮上していた。

政府間の政治的な駆け引きや外交問題は別として、中国において民衆レベルでの反日感情が露出するという事態は、私たちとしても無視できない問題である。単なる偶発的な事件であるならばよいが、様々に報道された事実を総合すれば、中国民衆の中には大きなマグマのような「反日」感情が潜伏していて、何かきっかけがあればいつでも噴出する状態にあるという状況が確認できるようでもあった。こうした状況をどう分析するかは大きな問題ではあるが、それよりも何よりも、この事態が私たちの今回の「文化交流」に何らかの影を落とすのではないかと危惧されたのである。

しかし、私たちのこうした憂慮も杞憂にすぎなかったようである。今回来日された北京大学の先生方の中には熱狂的な「サッカーファン」もいたようであるが、彼等もまた私たちと同様に今日の事態を憂慮されていた。しかし、この問題についてより深いレベルで話し合う時間的

な余裕は残念ながらなかった。

今回の討論会は、北京側の到着がまる一日遅れるというトラブルから始まったが、最後までトラブルにつきまとわれたようである。30日には北京大学の方々は関西空港から帰途につくことになっていたのだが、折悪しく台風が接近中で、飛行機が飛び立てるかどうかが微妙であった。何とか飛行機は無事飛び立つことができたのだが、見送りに行った文教研の人々が今度は電車不通のため関空に足止めをくらい、ようやくバスで脱出できたという災難に見舞われることになった。

「禍転じて福となる」という格言があるが、今回の事態には必ずしも適用できなかったようである。日本へ中国の先生を招く形での討論会開催の第 回目であることもあって、天災によるトラブルに加えて、行き届かない点多々あったと思われ、運営の難しさを痛感することになった。その点で「二度あることは三度ある」という格言の妥当性を確認させられた。しかし、この状況の中でも北京大学から来日された牛大勇主任はじめ北京大学諸先生のご協力により内容的に充実した研究会を実施できたように思われる。以下、当日の研究発表の詳細を記しておく。

●研究発表及び討論（総合司会：河合文化教育研究所研究員 金 貞 義）

I（司会：河合文化教育研究所研究員・鹿児島大学名誉教授 大谷 敏夫）

○郷里・官場・士林 漢晋士族の発展についての若干の断想

北京大学教授 閻 步 克

・コメンテーター：河合文化教育研究所主任研究員・京都大学名誉教授 谷 川 道 雄

○六朝貴族における人格と身体

谷 川 道 雄

・コメンテーター：閻 步 克

○愛のための戦い 漢と匈奴との戦争と良賤身分制

北京大学助教授 蔣 非 非

・コメンテーター：河合文化教育研究所研究員 山 田 伸 吾

II（司会：北京大学助教授・歴史学系副主任 高 岱）

○東北アジア諸民族の民族的系譜について 肅慎から渤海へ

河合文化教育研究所研究員 河 上 洋

・コメンテーター：北京大学助教授 劉 浦 江

○『遼史』国語解から『欽定遼史語解』まで 契丹言語資料の源流

劉 浦 江

・コメンテーター：河 上 洋

○江戸時代の通俗道徳をとらえ直す 石門心学を通して

河合文化教育研究所研究員 八 箇 亮 仁

・コメンテーター：蔣 非 非

III（司会：河合文化教育研究所研究員 金 瑛 二）

○第一次世界大戦の 世界性 の問題について

高 岱

・コメンテーター：河合文化教育研究所研究員 小 林 賢 治

○近代日中学術思想を比較して 経世学と法学・政治・経済学

大 谷 敏 夫

・コメンテーター：高 岱

●総括討論（司会 金 瑛 二）

谷 川 道 雄・牛 大 勇（北京大学教授・歴史学系主任）

●特別講演

○1989-1992年ブッシュ(シニア)大統領任期中の中米関係に対する中国知識人の反応

中華アメリカ学会を中心視点として

牛 大 勇